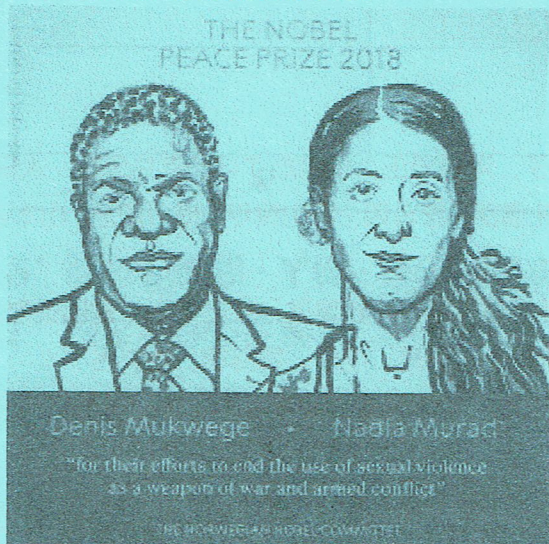


# 平和にたいして発言することの できない国=日本

八木巖

2018年ノーベル平和賞はコンゴ民主共和国のドニ・ムクウェゲさんとIS（イスラム国）の性的暴力の告発を訴えたナディア・ムラドさんが受賞しました。「戦争や武力紛争の武器としての性暴力を撲滅するための努力」が受賞理由ということです。

ムクウェゲ医師は「5万人以上の性暴力被害者を治療した」医師で、その発言から武装勢力に暗殺されそうになったこともあるという人です。私は、BS世界のドキュメンタリー「ムクウェゲ医師の闘い～コンゴ 性暴力の犠牲者を癒す～」の放送でムクウェゲさんのことを知りました。



ドニ・ムクウェゲさんとナディア・ムラドさん

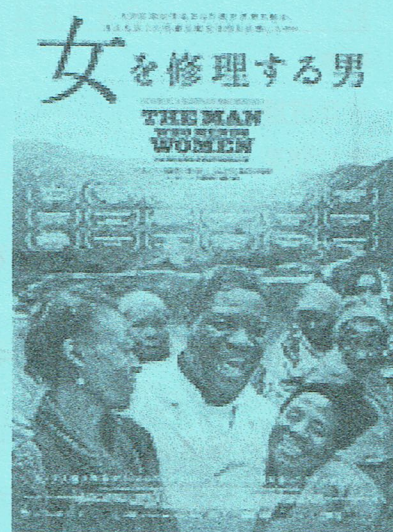
不戦へのネットワークでは2016年11月5日に、ルワンダ、コンゴでUNHCR（国連高等難民弁務官事務所）で働いた経験のある米川正子さんをお呼びして講演会を開きました。「自衛隊南スーダン派遣の背景」というテーマで、アフリカとくに中央アフリカの状況についてお話ししていただきました。その時のお話しのなかで、コンゴにおける紛争は鉱物資源をめぐるもので、鉱山地域住民が虐殺や性的暴力にさらされている。レアメタル・コンタルは携帯電話やパソコンに使われており、その入手先は「武装勢力」であり、その意味でコンゴでの虐殺やレイプは私たちと関係ないわけではありません。コンゴの紛争が長引くのはレアメタルの入手という経済問題です。米川さんは、コンゴのPKOは紛争を長引

かせる要因だ！という告発もされていました。（講演の全容はYouTubeにあげてあります。）

<https://youtu.be/11sP6tUPPV1> です。

米川さんはムクウェゲ医師を追ったドキュメンタリー映画「女を修理する男」の上映活動をおこなったり、2016年にはムクウェゲさんを日本に呼び、講演会を企画されたりしています。（私たちは米川さんと名古屋での講演のあとに交流会をおこないました。その席でこの映画を名古屋でやれたらいいな、という話もしました。残念ながら実現はできませんでしたが。）ノーベル平和賞受賞は、ムクウェゲさんの活動を熱心に

日本で紹介されてきた米川さんにも大きな喜びだと思います。「女を修理する男」は機会があればぜひご覧ください。JICAなどが上映会を予定しているようです。DVDも販売されています。



ムクウェゲ医師は旧日本軍の「慰安婦問題」についても発言をしており、来日時には「女たちの戦争と平和資料館」を訪れています。そして、「強姦は戦闘資金がかからず、敵に多大な恐怖を与えられる、戦争の手段として使われている、それをやめさせるには、加害者が誰であるかをはっきりさせ、国家の責任を問うことが重要だ」とされたそうです。

今年のノーベル平和賞のテーマは「戦時下での性暴力」です。日本政府や、マスコミはこの問題にどう反応したでしょうか？世界の常識は日本では通用しないのでしょうか？核兵器禁止条約のICANのノーベル平和賞受賞にたいしても冷たい反応でした。もはや日本は平和に関して「物を言わない」国になってしまっています。